



KAHF ニュースレター

〒606-8035 京都市左京区吉田河原町 15-9 京大会館 116号

財団法人 京都国際文化協会内

京都ホストファミリー(KAHF)

No.9

行事予定

2010

4月25日(日)

・ケーキパーティ

(吉田南キャンパス生協2F)

5月

・ハイキング

7月

・祇園祭

10月

・大原バーベキュー(予定)

1月18日(日)

・新春親睦パーティ

・バザー

(国際交流会館イベントホール)

3月

・総会ファミリーの集い



KAHF ファミリーの皆様、お元気でお過ごしでしょうか？

KAHF は、今年で設立後丸 25 年の節目の年を迎えました。既に、昨年から 25 周年記念の行事も始まっております。これも皆様のご支援・ご協力の賜物と感謝申し上げます。

完全な民間自主団体で、25 年もコンスタントに活動できたことは驚きに値します。設立時からの一步一步が、社会に対して地道な貢献をしてきたこと、それを会員間で実感しながら留学生や社会に働きかけてきたこと等の中に、長続きの秘訣が宿っていたのではと考えます。

現代、日本国内では、旧来からのコミュニティの崩壊、世代間のコミュニケーションの断絶の危機が具現化してきております。また、国際間では、話し合いの不成立を受けて、武力行使の状態に陥ったりして、これまた危機的状況が改善される兆しはありません。こうした状況において、民間の国際親善は非常に重要な要素を占めつつあります。

政治・経済等の問題で、二国間で険悪な状況になったとき、華々しく活躍するのは、政治家ですが、それを陰で支えるのは、我々のような民間国際親善団体でもあるわけです。二国間の紛争で、国民同士が憎しみを持ち、それがエスカレートしそうなとき、こうした地道な国際親善で暖められた個人対個人の友情が、そのエスカレーションをとめる力になりうるのです。

我々の活動はほんとうに小さな活動かもしれませんが、そのことを信じて、きっと大きな力になりうるかと考えて、今後の指針としたいものです。

今年一年の、皆様のご健勝と担当留学生とのふれあい活動が益々盛んになることを祈り、巻頭のことばとさせていただきます。

綾木光弘



ホームページリニューアルしました。

<http://kahf.web.fc2.com/>

ホームページリニューアルに当たりまして、R.A 様には大変なご苦勞をお掛けいたしました。本当にありがとうございました。どのように進化させていったらいいのかこれからの課題です。

春の行事



ケーキ・パーティー（京大吉田食堂） 2009.4.26

新学年度が始まった4月26日、恒例のケーキパーティーを京大南生協食堂で行った。お天気にも恵まれ、37ファミリー、67名と約100名の留学生が集まった。谷垣代表世話人の司会のもと、ケーキや飲物での歓談、くじ引き、バザーなど和気藹々のパーティーとなった。この日、留学生27名がKAHFへ申込をいただいた。そのファミリーも決り、KAHFの新しい年度が始まった。

今年はKAHF創立25周年にあたる。京都市国際交流基金もいただくことができた。1年間にわたって、記念の会合、弁論大会、記念誌の発行など、各種の行事を進めてゆきたい。

春のハイキング（御所） 2009.5.17

新型インフルエンザの感染の可能性があります、残念ながら中止しました。



夏の行事



祇園祭（船鉾、岩戸山参観） 2009.7.14

7月14日（宵々々山）の夕べ、留学生とファミリーが大勢集まって祇園祭を楽しんだ。これは平成2年以来続いている行事である。船鉾と岩戸山の鉾町に住んでおられるKAHFの会員古川様と西別府様のご厚意で、お囃子の始まる前に鉾と山の上へ上らせていただき、内部を拝観させてもらうことができる。岩戸山ではその由来について西別府様から英語の説明があり留学生達は熱心に聞き入っていた。女子留学生達はファミリーに浴衣を着せてもらい、鉾の周りに集まって華やかな雰囲気を楽しんでいた。今夏の参加者は船鉾83名、岩戸山62名で年々その数は増えている。



秋の行事



大原バーベキューパーティー 2009.10.18

KAHF創立25周年行事の一環として、大原の廃小学校でのバーベキューパーティーを行った。紅葉には少し早かったが、晴天に恵まれ、ファミリー80名と留学生47名、合計127名の大パーティーとなった。皆で作った料理は、バーベキューと海鮮焼そばおよび野菜カレーライス、量もタップリで皆満腹！食事の後は、ボール運びおよびじゃんけんゲームに大人も子供も大はしゃぎ。皆で後片付けをして解散したが、一部のファミリーと留学生は大原の散策や三千院まで出掛けたそうである。インドネシア地震の募金も行った。

KAHF 創立 25 周年記念弁論大会報告

京都ホストファミリー協会 (Kyoto Association of Host Families, KAHF) は創立 25 周年を迎え、記念行事の一つとして、日本で勉強して感じたこと、国際化に向かう日本社会への提言、KAHF 活動への感想などをテーマに、留学生による日本語弁論大会 (Speech Contest) を下記により開きました。16 名の発表者を含め KAHF のファミリー、留学生など 80 余名の参加者がありました。外からの目で見えた日本社会についての若い感受性と知性にあふれたさまざまな考えは大変新鮮なものがありました。

2009年12月13日(日) 13:00~17:00
京都大学 本部キャンパス 法経本館 第八教室



1. 日本とタイの社会 Temtrirath Kanate (タイ)
2. 日本での旅 張拓 (中国)
3. 中国のお母さんと日本のお母さんは親友! 高飛 (中国)
4. 愛を与えて、少しでもいい 朱文君 (中国)
5. 国際化に向かう日本社会への提言 Bhandare Chaitanya (インド)
6. カーフファミリー 節子さんと出会って 私たちはハッピー Pradhananga Rojee (ネパール)
7. 集団意識と個性—私の目で見える日本の教育における集団志向— 鄭谷心 (中国)
8. 協調術 エルデネ アリウナ (モンゴル)
9. 偽装している外国人の留学体験 Sanada Igor Takeshi (ブラジル)
10. 国際化に向かう日本社会への提言 Lim Yikang (マレーシア)
11. グリーン社会を迎えよう 王秀婷 (台湾)
12. 「すごい」日本 KEK LAY SEE (マレーシア)
13. 日本でお父さん、お母さんと呼べる人ができて、良かった 張露露 (中国)
14. 矛盾だらけの日本 曹文強 (中国)
15. 騒音と日本での生活 Tatarczuk Marcin (ポーランド)
16. サービス第一の日本 Hanne Louise Knappen (ベルギー)



新春



2010年新春パーティーの報告

2010年も明けた1月17日(日)、KAHF恒例の新年会が今年は「KAHF創立25周年記念祝賀新春パーティー」と題して京都国際交流会館ホールにて催された。

A Bのファミリー会員83名、留学生117名等約200名が参加。お寿司やケーキなどの軽食を楽しみ、弁論大会の優勝者・中国の張露露さんのスピーチ、タイのエーンさんによる踊り、子ども達へのお年玉、全員の合唱などのプログラムで会場は盛り上がった。

参加者全員の集合写真はファミリー笠井様の撮影により後に動画となって会員にメールで送られた。

パーティー後に行われたバザーでは¥31,770の売り上げがあった。

なお、留学生会員には25周年記念品としてエコの「マイ箸」が配られた。

A.S



KAHFの活動について 私の感じること
—25周年記念祝賀パーティーに参加して—

(関穎)

今年KAHFが設立して25周年を迎えたとのこと。気が付くと私もKAHFのお世話になって間もなく10年になります。私が最初にKAHFのことを知ったきっかけは、知り合いの先生の紹介でした。KAHFの活動に参加した当初は、いつもお世話になっている先生に会い、自分の近況を報告することが主な目的でした。そのうちKAHFの活動に参加することが知らぬ間に日本の生活の一部となってきました。私と同様、多くの留学生は経済格差のために、学習の傍らにアルバイトもしなければなりません。想像しにくいかもしれませんが、毎日の生活は時計のように回りっぱなし状態です。誤解しないで欲しいですが、それだからこそ、このような私たちにとってKAHFの活動は数少ない日本人と交流する場であり、息抜きの場所でもあります。

KAHFは留学生たちに日本人と交流する場を提供しただけではありませんでした。留学生と言っても国籍から見ると多様です。そのために、KAHFに来ればいろいろな国の人と知り合うことができ、立派な国際交流もできます。

留学生の中には家族持ちの人がたくさんいるので、KAHFのもう一つの特徴として子どもで賑わうことです。KAHFのホストファミリーの子どもたちを合わせると、すごい数です。特に今年は参加する人が多く、子どもの人数も例年より多く感じました。少子高齢化が進むなか、KAHFに来れば一先ず胸を撫で下ろせるような気がします。何よりも、子どもたちは国籍、人種、言語、文化…あらゆる壁を超えて、ただひたすらにはしゃぎ、笑い、思い存分に楽しんでいます。その無邪気な姿を見るとエネルギーを貰うと同時に、改めて草の根の交流の重要性が思い知らされるような気がします。恐らく近い将来、この子どもたちが間違いなく国際交流の架け橋となり、世界平和に貢献するような気がして嬉しいです。ここでは、次世代の交流も静かではありますが、確実に行われています。

この何年間のKAHFの活動を振り返ってみると、華々しいというより、日常生活の一駒であると言ったほうが適切かもしれません。それだからこそ、KAHFの行事にはとてもアットホームな雰囲気があり、家に帰るとリフレッシュしたような不思議な気分になるのも説明がつくのかもしれません。例え話ではありますが、祭りはとても楽しくて、必要不可欠だと思います。しかし、一年の中祭りの日よりはるかに多いのは日常であるように、KAHFの活動も日常の色のほうが濃いような気がします。だからこそリラックスして参加できるし、家に帰っていくような錯覚さえ覚えます。異国で暮らし、異文化に直面する留学生たちにとっては、祭りのような刺激が必要ですが、それ以前に平凡ではありますが、送らなければならない日常のほうが圧倒的に多く、その分難しいと言えるのかもしれません。その意味でKAHFの行事はちょうどバランスが取れているような気がします。それはKAHFの特徴であり、魅力ではないかと思います。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、KAHFは私の心のオアシスの一つのような気がします。

そして将来いつか私もKAHFの精神を継承し、このような活動をしたいと思います。それはここまで享受してきたものを何らかの形で社会に還元し、僅かかもしれませんが、KAHFに対しての恩返しになれば幸いです。そして、このような努力を通じて少しでも世界平和に尽力できることがKAHF創設の初心ではないかと思います。



後列右から二番目が関さんです。
お正月、阪田様のご家族と

Our Host Family: A Bonding for a Lifetime

Deepali Goel 8th, Dec, 2009

[インドから留学

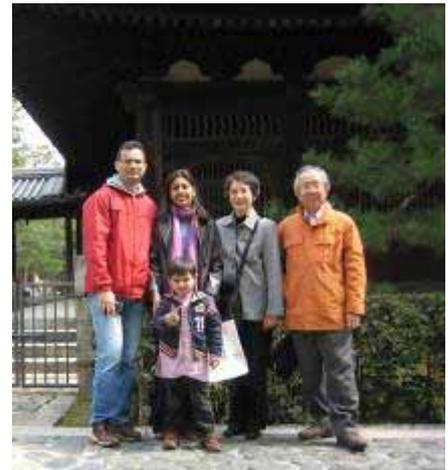
Goel Sandeep (2008年 京都大博士号取得) の夫人]

It has been almost two years since we left Japan and returned to our country 'India'. Japan has left an indelible impression on not only our minds but also on our 6-year old son. I still remember the day; my husband was discussing the idea of applying to KAHF for a host family. I was quite apprehensive but at the same time very excited with the idea of getting close to a Japanese family. The picture of innumerable 'gaikokujins' smiling with their host families also seemed very encouraging.

The way our host family leads their life has taught us a lot. Through them I got an insight into the Japanese way of living which always seemed very hospitable but a little distant.

Though we are back in our country, the memories we have left behind keep coming back to us, bringing along tearful smiles. No conversation about Japan ends without mentioning our wonderful hosts and the permanent connection we have made with Japan through them.

Through this write up, I would like to extend my heartfelt thanks to them for making our stay so comfortable and enriching.



ホスト家族が送っている生活の様子から、私たちはいろいろと学びました。たいそう心遣いが行き届きますが、たがいにすこし距離をおいて付き合う、という日本のひとたちの日常の流儀がわかったように思います。

私たちはインドに帰ってきました。日本のたくさんの思い出がよみがえって、ほほ笑みながら涙がこぼれます。私たちに良くしてくださった家族たちのこと、日本とのこれからも続く関わり合いを確信してお話をおわります。この機会に、私たちが楽しく実り多い日々を送れるように力を添えてくださったKAHFの皆さまに、心からお礼を申します。高村様要約



新入会ファミリー

Aブロック： 7組

Bブロック： 4組

退会ファミリー

Aブロック： 2組

Bブロック： 2組



編集後記：

本年度はKAHF 発足 25 年記念すべき年でした。記念誌作成とニュースレター発行が同時となり、思わず「やってみましょうか？」と言ったものの出来るかしら、、、不安だらけ。

昨年の製作者 h.n さんにフォーマットをもらいトライする事に。

上手くいっているな思っていると全く言う事を聞いてくれない事もあり、四苦八苦。

私のやり方はどうも邪道らしいのですが、でもこのやり方しかできませんでした。次回の製作者の方にきちんとしたものはお願いする事とし、今回はこれで我慢して欲しいと思います。今までの製作者の苦労が身にしみました。

皆様には作成に当たりまして、原稿、写真をお送りくださりありがとうございました。紙面をお借りし御礼申し上げます。

S.T

引き受け留学生の国と人数

南アフリカ	1
台湾	4
中国	15
マレーシア	5
ブラジル	2
カンボジア	1
タイ	11
ネパール	1
グアテマラ	1
ベルギー	1
インドネシア	1
ペルー	1
ギリシャ	1
ロシア	1
ウクライナ	1
ウズベキスタン	1
ボリビア	1
韓国	1
ポーランド	1
ネパール	1
フィリッピン	1
マケドニア	1
エクアドル	1
ザンビア	1
チリ	1
オーストラリア	1
ベトナム	3
モロッコ	1
シンガポール	1
スウェーデン	1
アメリカ合衆国	1